

平成28年度 入札監視委員会議事概要

九州防衛局

開催日及び場所	平成28年12月7日(水) 福岡第2合同庁舎5階 第1会議室
委員	松藤 泰典 (大学名誉教授) 諏佐 マリ (大学准教授) 清水 秀幸 (公認会計士) 増永 弘 (弁護士)

II 契約実施機関が締結する契約（地方防衛局等が発注する建設工事等を除く。）に関する審議

審議対象期間	平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日	
審議対象件数	1,017件	
1. 入札状況について（入札参加資格の設定、指名及び落札者決定の経緯等について）		
抽出件数	11件	(審議概要) 1 地方調達発注実績について 2 抽出事案について
一般競争	11件	
指名競争	0件	
随意契約	0件	
	意見・質問	回答
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	<p>【地方調達発注実績について】</p> <p>特になし</p> <p>【抽出事案について】</p> <p>1 [航空機騒音自動測定装置購入等(鹿屋)] (一般競争)(1者応札)</p> <p>2 [航空機騒音自動測定装置購入等(新田原)] (一般競争)(1者応札)</p> <p>3 [築城飛行場等周辺における航空機騒音自動測定装置保守点検等業務] (一般競争)(1者応札)</p> <p>・調達の経緯を説明願いたい。1者応札の考えられる理由。</p>	<p>・築城飛行場等周辺における航空機の騒音状況を把握するための航空機騒音自動測定装置の購入と、測定装置の保守点検を行うものである。平成10年から購入し、平成20年に一部更新しているが、当時から九州リオン(株)が落札してい</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・航空機騒音自動測定装置の落札率は90%前後だが、保守点検は99%となっている。何が原因と考えるか。</p> <p>・機器の仕様書に、メーカーを特定し同等の性能を有する物も可とするより、性能のみで発注すべきではないか。</p> <p>4〔築城飛行場(27国)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務〕(一般競争)</p> <p>5〔築城飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その1〕(一般競争)</p> <p>6〔築城飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その4〕(一般競争)</p> <p>7〔新田原飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その1〕(一般競争)</p> <p>8〔新田原飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その2〕(一般競争)</p> <p>9〔新田原飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その3〕(一般競争)</p> <p>10〔新田原及び鹿屋飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務〕(一般競争)</p> <p>・業務内容を説明願いたい。</p> <p>・5月11日で一斉に契約している理由、また、分割して発注している理由を説明されたい。</p>	<p>る。機器については特別な性能を要求しておらず、保守点検も同様であるが、結果として1者応札になっている。</p> <p>・明確な原因についての回答は困難であるが、2者から見積りを採り精査して予定価格を作成している。公告についても広く募集しているので、高い落札率にはなっているが妥当だと考える。</p> <p>・現在、同等の性能を有する物であれば良しとしているが、今後仕様書の書き方について検討したい。</p> <p>・住宅防音事業については補助事業者が個人なので、不慣れな事務手続の補助等を行うことにより事業の円滑化を図るものである。</p> <p>・予算示達前に公告を行い、示達がきた時点で落札者を決定しているため、同日付での契約が多くなっている。また、内部規定で原則</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・「築城飛行場(27)における住宅防音事業に係る事務手続補助等業務その4」の落札率が他の業務と比べて低い理由は何か。 (株)九州住宅防音中野事務所と(一財)防衛施設協会が落札している案件が多いようだが過去の実績が知りたい。</p> <p>11〔新田原(27)施設発生物品売払〕 (一般競争)</p> <p>・予定価格の作成方法を説明願いたい。売払いの落札金額が異常に高い理由。</p>	<p>100件程度をひとまとめに分割発注しているため件数が多くなっている。</p> <p>・予定価格作成の歩掛や計算方法については公表しているので、予定価格は妥当なものと考えている。今回は新規参入業者がおり、過去に新規参入業者が利益度返しで入札してきたことがあったため、どうしても落札したい(株)九州住宅防音中野事務所が経験豊富なことも加味して低い金額で入札したものと思料される。業務を受注する業者が限られてきており、業者の営業地域によっては落札業者が偏っている状況が実績として表れていると考えられる。</p> <p>・解体工事等で発生した鉄屑や銅、アルミ等の売払を行う。予定価格は本省の通知「施設発生物品等の売払いの予定価格の積算について」に基づき積算している。単価は建設物価の直近の数字を基に計算しており、その上で見積りが必要な引取経費は8者の見積りから最低価格をとり、その他積卸し経費、輸送費を合わせて差し引いた額を予定価格としている。鉄屑については供給量が安定せず短期間で単価が大きく変動する。量を確保したい業者の買い取り意欲や、高値で売り払う将来動向を見据えた札入れになっているため、落札金額が高くなったと思料される。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	